

教 育 長 様

研究コース
A グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
561155

代表者	校 園 名 :	大阪市立本田小学校
	校園長名 :	今村 友美
	電 話 :	06-6581-1531
	事務職員名 :	喜連 尋滋
申請者	校 園 名 :	大阪市立本田小学校
	職名・名前 :	教諭 池上 智希
	電 話 :	06-6581-1531

令和5年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	対話が深まる学びを創出する授業・教材の開発			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てて記載してください。</p> <p>本校では、これまで逆向き設計論、パフォーマンス課題、一枚ポートフォリオ等の研究を実践してきた。しかし、全教員で本校の実態をふりかえったところ、「自分の考えをもつこと」「自分の考えを伝えること」「他者の考えや思いを受け止めること」といった点を苦手とする児童がいる実態が明らかとなった。これらの課題から、「互いを認め合う本田っ子」をめざす子ども像とし、対話的な学びに焦点を当てて、試行錯誤の必要性から対話を創出する授業・切実感から対話の必然性を創出する教材を開発する研究を推し進めていく。</p> <p>①対話的な学びを実現することで、児童が問題解決に向けて多角的に思考できるようにする ②教員の授業力向上 知識・技能を教え込む授業から学びの深まりを創出する授業へ ③教材との対話を通して、児童に「気づき」をもたらす教材の開発 ④地域の方々、専門家といった他者との対話を通して、児童の質問力を育む授業の開発 ⑤実践事例の作成による次年度以降の研究の土台づくり</p>			
		<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究は、本校の実態から、対話的な学びに着目して、児童の育成と教師の授業力向上を推し進めていく。具体的な内容を次に記す。</p> <p>①「対話が深まる学び」の定義づけと授業実践 仲間との対話、先人を含むさまざまな人との対話、自分自身との対話等、それぞれが深まる状態について定義し、授業実践に取り組む。</p> <p>②「対話が深まる学び」に着目した公開授業研究会の実施 全市に向けての公開授業研究会を開催し研究成果を発表するとともに、実践交流会を行う。</p> <p>③「対話が深まる学び」につながる切実感のある体験活動の実施 例 6年生・弥生文化体験・裁判員を経験された方、被爆体験伝承者の招聘など</p> <p>④教員の授業力向上のために、先進的研究校及び研修会への派遣 京都教育大学附属桃山小学校、東京都小金井市立第三小学校、福岡教育大学附属小倉小学校 他</p> <p>⑤対話を促進させる学習材・協働学習支援ツールの活用 発表用ホワイトボードや円形型ホワイトボード、大阪市が導入している協働学習支援ツール（SKYMENU Cloud）等を活用した授業実践。また、これらのツールを活用しながら、校内研修の実施。</p> <p>⑥教員の学びを広げ、深めるための講演会の実施 大阪教育大学：錢本三千宏 教授、京都大学：石井英真 准教授、 池田市立神田小学校：樋口綾香 教諭 他</p> <p>①～⑥の活動を通して、各授業検討会での記録、各授業記録、各講演会での記録、各ふりかえりなど整理し、実践事例を作成する。また、それを次年度以降への研究に活かす。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p>			

研究内容

昨年度の研究より、
・対話を通して自分の考えを表現できる児童が増加した。
・教員が会話と対話の違いを明らかにし、対話が深まる状態について討議を重ねることで、対話が深まる学びを意識して授業を構築するようになった。
・友達や先生、教材、他者との対話を通して、本校のめざす子ども像「お互いを認め合える本田っ子」に近づくことができた。

等の成果を挙げることができた。課題としては、

- ・継続的に対話が深まる学びを意識した実践すること。
- ・教科横断的な視点でカリキュラムをマネジメントしていくこと。
- ・対話を通して自分の考えを表現し、自ら問題解決をしようとする児童を育成すること。

等が挙げられる。

今年度は、昨年度の成果と課題を受けて、次の7つを研究内容として取り組む。（変更した部分に下線、⑦は今年度新たに加えたもの）

①「対話が深まる学び」の授業実践

仲間との対話、先人を含むさまざまな人との対話、自分自身との対話等、発達段階や経験に応じて、それぞれが深まる授業実践に取り組む。

②「対話が深まる学び」に着目した公開授業研究会の実施

全市に向けての公開授業研究会を開催し研究成果を発表するとともに、実践交流会を行う。

③「対話が深まる学び」につながる体験活動の実施

例 5年生 「防災について考える」 人と防災未来センターの見学、出前授業など

3年生 「まちの様子」 西警察署や西消防署の方の話を聞く、地域の見学など

④教員の授業力向上のために、先進的研究校及び研修会への派遣

奈良女子大学附属小学校、京都教育大学附属桃山小学校、筑波大学附属小学校他

⑤対話を促進させる学習材・協働学習支援ツールの活用

発表用ホワイトボードや円形型ホワイトボード、大阪市が導入している協働学習支援ツール（Teams、SKYMENU Cloud）等を活用した授業実践。

⑥教員の学びを広げ、深めるための講演会の実施

大阪教育大学：木原俊行 教授、京都大学：石井英真 准教授、大阪公立大学：島田希 准教授
より対話的な学びを促進するために以下の観点を研究内容の柱として追加する。

⑦カリキュラム・マネジメントの充実に向けた授業実践

教科等間のつながりを意識し、教科等横断的な視点で組み立てていく授業実践に取り組む。

(3)継続研究 [3年目]

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。			
5	活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、授業実践の記録の整理、実践事例の作成 ・ゲストティーチャーについては、授業実践を行うタイミングで随時、招聘 ・毎月 授業力向上に向けた全教員対象の校内研修を実施（対話促進ツールの活用） <p>4月 研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討、年間計画の作成 校内の授業研究会の授業者及び公開授業研究会の授業者決定</p> <p>5月 指導案フォーマット・評価基準の検討 招聘予定のゲストティーチャー及び専門的講師との打ち合わせ 第1回指導案検討会</p> <p>6月 第1回授業研究会・研究協議会（大阪教育大学 木原 俊行 教授） 本研究に対する児童へのアンケート内容検討及びアンケートの作成 先進的研究校への視察（国立筑波大附属小学校）</p> <p>7月 対話的な学びについての実践交流会の実施</p> <p>8月 公開授業に向けての教材研究及び指導案の作成 第2回指導案検討会</p> <p>9月 第2回研究授業・研究協議会（大阪公立大学 島田 希 准教授） 公開授業研究会指導案検討</p> <p>10月 公開授業研究会 京都大学 石井英真 准教授による講演 第3回及び第4回指導案検討会</p> <p>11月 第3回及び第4回授業研究会・研究協議会（大阪教育大学附属池田小学校 森光 利海 教諭）</p> <p>12月 第5回指導案検討会 対話的な学びについての実践交流会の実施</p> <p>1月 第5回授業研究会・研究協議会（関西学院大学初等部 宗實 直樹 教諭） 第6回指導案検討会 児童アンケートの実施・分析 先進的研究校での研究会参加（東京学芸大学附属小金井小学校）</p> <p>2月 第6回授業研究会・研究協議会（大阪教育大学 木原 俊行 教授） 先進的研究校での研究会参加（京都教育大学附属桃山小学校、福岡教育大学附属小倉小学校など）</p> <p>3月 研究のまとめ作成 次年度へ向けて、成果と課題の共通理解</p>			
		出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。			
		<input type="radio"/> 6月中旬 先進的研究校への視察 <input type="radio"/> 10月20日 公開授業研究会の指導助言 講師：京都大学 石井英真准教授 <input type="radio"/> 授業研究会の指導助言 講師：大阪教育大学 木原俊行教授 他 <input type="radio"/> 2月中旬 先進的研究校への視察			
		6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 <input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>理由 新たに「教科等横断的な視点での授業」についての取り組みを追加したため</p>	
				(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> 」および、「 <u>教員の資質や指導力の向上</u> 」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）	
				<p>【見込まれる成果1】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>対話が深まる学びの実践を通して「確かな自分の考えをもつ力」「自分の考えを明確に伝える力」「他者の考えや思いを受けとめる力」を育成する。</p>	
				<p>《検証方法》</p> <p>本研究についての児童アンケートを実施し、「授業中に自分の考えをもつことができていますか」「自分の考えは友だちに伝わっていると思いますか」の項目について、肯定的な回答を85%以上にする。</p>	
				<p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>地域やゲストティーチャーと連携した活動や、人・自然・文化（もの）との関わりを充実させた豊かな体験活動を通して、児童同士の対話を促進し学びが深まるようにする。</p>	
				<p>《検証方法》</p> <p>本研究の実践前後で、児童アンケートを実施し、「見学したり、実物を体験したりする活動は好きですか」「地域の方々や専門家の話を聞いたり、質問したりする学習は、自分の成長につながっていると思いますか」の項目で、5ポイント以上上昇させる。</p>	

6	<p>見込まれる成果とその検証方法</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>研究授業・校内研修等で「対話」に対する知見を深めたり、教科横断等の視点に立った授業実践に取り組んだりすることを通して、「対話が深まる学び」について校内で検討し、それを基に実践を深めるといったサイクルを回すことで、教員の資質や指導力を向上を目指す。</p> <p>『検証方法』</p> <p>教員アンケートの項目「今年度の校内研究は自分の授業力向上につながった」「今年度の研究は、自分の教育観の見方・考え方を広げるものであったか」で肯定的割合を80%以上にし、「教科等横断的な授業実践を行うことで、自身にどのような力が身に付いたのか」に対しての記述回答及び口頭による回答を分析し、資質・能力の向上を明らかにする。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>本研究が、大阪市各校の研究の一助となる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>公開時のアンケートで「本校の研究は、参考になったか」の項目で肯定的な割合を80%以上にする。</p>						
7	<p>研究成果の共有方法</p> <p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和6年2月22日）までに必ず行ってください。</u></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="398 833 1410 900"> <tr> <td>日程</td><td>令和 5 年 10 月 20 日</td><td>場所</td><td>大阪市立本田小学校</td></tr> </table> <p>◆waku^{×2}.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="398 990 959 1057"> <tr> <td>日程</td><td>令和 6 年 2 月 22 日</td></tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 5 年 10 月 20 日	場所	大阪市立本田小学校	日程	令和 6 年 2 月 22 日
日程	令和 5 年 10 月 20 日	場所	大阪市立本田小学校				
日程	令和 6 年 2 月 22 日						
8	<p>代表校園長のコメント</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>これまで積み重ねてきた研究内容や児童の実態から、本校がめざす子ども像「お互いを認め合える本田っ子」を設定した。互いを認め合うために必要な資質・能力とは何かを話し合った結果、キーワードとして挙がってきたのが「対話する力」である。</p> <p>問題解決の過程や試行錯誤の必要性から生まれる対話、教材と向き合うことで生まれる対話、相手が共感する対話、自分の考えを再確認するための対話等について、理論的な研究と授業実践とをリンクさせながら、「対話が深まる」とはどのような学びが成立することなのかを明らかにしていく。</p> <p>well-beingな社会を実現させるべき児童にとって、より多くの他者や文化・価値観との「対話」は必要不可欠となる。まずは、本校教員がこの研究を通して「対話する力」を高め、授業力を向上させることで、「一人の人間としてよりよく、より幸せに生きる」というwell-beingな社会を体現させる存在となる。その上で、2030年の社会を形成する児童の育成につながる意義のある研究であると考える。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>「対話する力」に焦点をあてた本研究により、昨年度は教員の教材への向き合い方や授業の構築に変化が見られ、結果的に学習課題に深く向き合う児童が増えた。本校教員はこの研究を継続することで、教員としての資質・能力を高めることはもちろん、「児童が人や教材と真摯に向き合い、対話し、深く学べる授業」を構築することで、2030年の社会を形成する児童を育成したいという思いを強く抱いている。</p> <p>今年度は、昨年度の研究の成果や課題から、教科横断的な視点で単元を構成していくことを新たに研究内容として加え、研究を進めていく計画を立てている。また、新型コロナウィルス感染症も少し落ち着き、この3年間あまりできなかった地域や外部との交流も復活していく予定である。児童が地域の方や外部の方とつながることで対話も深まり、児童のコミュニケーション能力、自尊感情や所属意識も高まると考えられる。</p> <p>対話により価値観のすり合わせや情報交換を行うことで、多様な物の見方や考え方を受け入れ、新しい文化を創造する。この不確実で変化する時代を生き抜くためには、「対話」は不可欠である。未来を拓く児童を育成するためにも、継続して本研究を実施したいと考える。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						